

## 有り難き魂の救い

3回にわたってペテロの手紙の最初の山場である「生き生きとした希望」に聴いています。聖書によってはこれを「生ける希望」と訳しているものもあって、こちらの訳のほうが、希望自体に生命力、動きが感じられてよいと思います。実際、これこそがわたしたちに、神がキリスト・イエスを通して与えてくださった朽ちず、汚れず、しぼまない財産なのです。それはわたしたちの将来に置かれています。わたしたちを新たに生まれさせる力をもち、キリスト者に慰めと喜びと生きる力を与える源であり、祝福そのものです。それは死者の中からのイエス・キリストの復活、それを信じさせて頂く神からの贈り物としての信仰によって、わたしたちを守るものだと言っています。1章の3節から12節まで、ペテロは、この「生き生きとした希望」・「生ける希望」について語っています。内容のある箇所なので3回に分けて、この箇所を読んでいます。10節の「この救いについては」とある「この救い」は「生き生きとした希望」を指し、その希望とは「神が豊かな憐れみによって、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって」与えて下さったものだと言っています。そして今日読みました箇所では、この福音こそ、神の言葉を託された預言者たちや天使たちさえも見たい、聴きたいと願っていたものだったが、彼らは約束として望み見ていただけで、それを本当に手にすることが出来たのは主イエス・キリストの出来事に与ったわたしたちであったと書き送っているのです。ここでは旧約聖書の預言が大胆に、キリスト・イエスの苦難の十字架と復活による福音に仕えるものであったことが述べられ、この方によって遂に、人間の最大の問題であった罪と死の支配

が打倒され、新しい命の道が開かれたと旧約の歴史を読み解いています。あなたがたは、神の憐れみによってあなたがたのために用意された新しい時代に至っている、だから、主イエス・キリストを通して、この喜ばしい出来事、福音に与らせて下さった神を褒め称えなさいというのが、この手紙の大きなメッセージです。1章3節からの内容をまとめますと、そういうことになりましたが、もう少し、この死者の中からの復活という、主イエス・キリストが開いてくださった新しい出来事によって、わたしたちの最大の試練である死の問題が解決されているということに踏み込んでみたいと思います。昔、ある教会員がキリスト教に入信したきっかけを、高校生の時に牧師から「あなたは死の問題を解決していますか」と問いかけられたことだったと感話で話されたことがありました。直球の問いかけですが、これはわたしたちも折にふれて問うてみるべきことです。死の前に打ち砕かれるものは希望ではないからです。生ける希望は死に屈しない、死を超えてゆくものだからそう呼ばれるのです。ふつう死は三人称の死、二人称の死、一人称の死としてわたしたちに近づくものです。誰かの死、お前とかあなたと呼びかけるような親しい者の死、そしてわたし自身の死です。今日も誰かが死んでゆく。地球人口は現在78億ほどですがみな時が来れば死にます。これまで地球上にどれほど多くの人間が存在したでしょう。これらは全て皆死んでいます。人間だけでなく飼っている猫も犬も鳥も、ありとあらゆる生きとし生けるものは死という終わりを迎える。このあたり前の事実を、わたしたちは常識として頭のなかに置いています。死なない人間はいない、それは覆すことのできない客観的な事実です。それをわたしたちは否応なく学習させられています。周囲に満ちる三人称の死が、人は死を迎えること、そこには病死もあれば、事故死もあ

ります。なかには犯罪に巻き込まれたり、災害に巻き込まれることもあり、さらには戦争によるものなど、死にまつわるニュースが毎日テレビや、ネットや新聞で伝えられます。しかも、ニュースとなるのは不条理な死の姿であり、そこには人間の罪がくっきりと刻印されることも多い。銃の乱射に巻き込まれて死ぬ生徒、死にたかったからと列車のなかで突如刃物を振り回す者、突如国境線を踏み越えて日常を蹂躪してくる戦車、そしてもたらされる断ち切られるような死、明日から迎える8月はわたしたちの国にとって戦争の記憶と向かい合う時です。あの戦争集結からまもなく80年近く、もう高齢の方以外には身近に不条理な死の満ちる光景を体験した方たちは少ないですが、そうした日常と隣り合わせにあった暴力的な死は、このペテロの手紙でいえば、手紙の受取人となったこの地上に「ディアスポラでパレピデーモスとされた人々」すなわち「離散して仮住まいをしている人々」、苦難と迫害を受けて散らされている寄留者の人々にとっては日常でした。死は彼らの近くにあった。そしてよくよく考えれば、さまざまなバリエーションの死によって生ける者の世界から刈り取られてゆくわたしたちの現実を思えば、誰もが一定の時間を貸し与えられて地上に生かされている、みな仮の宿りとしての命を与えられている寄留者であり、この地上を永遠の住み処として生きることが出来ないという事実を認めないわけにはいかないと思うのです。それを諸行無常と言い表すことも出来ますでしょうし、万物流転とも言い表せますでしょう。人生は旅のようなものであると詩的に言い表すことも出来るでしょう。「人生は百代の過客にして、行き交う年もまた旅人なり」、西欧の修道院でも「メメント・モリ」が挨拶でした。死で終わる命を思うことは時間が有限であるがゆえに、今を大切に生きる視点を与えます。戦争中の手記などを

読むことがあります。時おり、明日で自分の命が終わるかと思うと今日、生きているこの空の青さが目に染みたとような記述に出会います。命が区切られていて、明日終わるかもしれないという緊張感が生きていることの意味や世界の美しさを際立たせていたという記述は考えさせられます。一方で、終わりを見据えて生きることは恐ろしいことでもあったので考えない、あるいは考えても回避できないので考えることをしないという生き方もある。三人称の死が周りに満ちるなか、二人称の死を恐れ、一人称の死からは目を背けてしまうわたしたちの弱さ、そこには死の意味を考えずにはおられない理性をもつがゆえの人間の苦悩があります。死について考えることはしばしばわたしたちを弱らせ、絶望させる。それでも高齢になって死を迎えるような場合は心備えの機会が与えられるように思います。計画的に身の回りの整理をしてゆかれた教会員を何人も存じ上げています。わたし自身も数年前から日常的に薬を服用するようになりましたので身体のおちこちが壊れてゆく実感があります。医薬の助けを借りている。当然、イエスさまの時代なら、そんなことは出来なかったろうと思います。平均寿命が30代とも言われる時代です。怪我をしたらもう助からない時代ですからね。輸血も抗生物質もない。ですから加齢に従って、部分的な死を経験しながら最終的に生体活動の停止するわたしの終わりとしての死に備える時間を与えられる。しかし、若いときや、壮年で迎える死は、その不条理さによって強烈に人を苛むものです。人は病む時に自分の罪を思うというのは本当で、20代で悪性の腫瘍で召された青年と最初にあった時に、わたしが聞かれたことは、自分は生き物をたくさん殺してきたからこんな目にあうのだろうかという必死の問いかけでした。その方は板前さんだったのです。死の問題は罪の問題とじかに結びつい

ていました。この方との出会いは、わたしに、人が死を免れることは出来ない以上、死から刑罰の側面が取り去られること、カルト宗教がつけこむのがまさにそこですね。罪の結果として死が来るのではないかと怯える者に「あなたの罪はイエス・キリストの十字架の死によって贖われている。心配せずともよい」という罪の赦しを宣言することが魂の救いになるということを教えられました。人生からチェックアウトして出てゆく時に、明細書を突きつけられてうろたえ、怯え、あがくのがわたしたちです。ですから突然の友人の死に動揺する高校生に「あなたは死の問題を解決していますか」と聞いた牧師はやはり必要な時に、適切な問いかけをしたのです。恐れなく死を迎えるためには、十字架でわたしたちの罪を滅ぼして下さったキリスト・イエスと出会い、復活の御業によって神が御子の贖いを信じる者に魂の救いと新しい命に生きる「生ける希望」をくださったことを知ることです。この消息の前に自分をおいて顧みることです。ペテロがキリスト・イエスを信じている人々に告げたことは、この罪の赦しと復活の福音でした。死者のなかからの復活の初穂となられたキリストに結ばれた者たちに、神は新しい創造の御業を起こされる。地上のものはすべて限界を持っていますが、天に蓄えられているゆえに朽ちず、汚れず、しぼむことのない天の財産、新しい命を約束されている。わたしたちには「終わりの時に示されるように用意されている救いによって」平安な眠りが約束されているのです。死はキリスト・イエスによって終わりから眠りに変わり、新しい命に目覚める時が約束されている。この消息を喜び、神を褒め称えることがわたしたちの礼拝の目的です。主の十字架と復活こそが、どんな境遇にあっても喜ぶことの出来る平安の拠り所であり、キリストご自身が苦難をへてこの栄光に至ったという聖書の証言は、試練や

苦難のなかでキリスト・イエスを愛し、信じて生きる離散した仮住まいの者たちの真の慰めとなったのです。この方に信仰によって繋がれていることが魂の救いであり、このイエス・キリストの福音に出会うことが許されたわたしたちは旧約の時代の人々にとっても、いやそれは天使たちにとってすら、待望の、いや羨望のまなざしで見られるような有り難い出来事であるとペテロは言うのです。この「生き生きとした希望」、わたしたちに備えられている将来の希望によって力づけられ、守られる幸いを思います。神の言葉に信頼し、主の愛に結ばれて、苦難と試練のさきにある魂の救いを確認したいと願います。

お祈りいたします。